



SKY Perfect JSAT
Holdings Inc.



さらなる成長への挑戦。

株主通信

2017年3月期末

2016年4月1日～2017年3月31日

株式会社スカパーJSATホールディングス

戦略的な業務提携などによる
事業領域の拡大を含め、
新たな成長基盤の構築を
目指してまいります。



2017年6月
代表取締役社長

高田 真治

2017年3月期の業績

**営業利益、経常利益、当期純利益は
過去最高益を更新しました。**

中期経営計画の初年度となった2017年3月期の業績は、有料多チャンネル事業※では、視聴料収入の減少により減収減益となりました。一方、宇宙・衛星事業においては、防衛省向けに専用衛星を引き渡したこともあり大幅増収増益となりました。これらの結果、全社での営業収益は前期比18.4%増の1,928億円と2007年の設立以来、過去最高を記録しました。また営業利益は同0.9%増の244億円、当期純利益は同3.2%増の174億円と、どちらも昨年に引き続き最高益を更新いたしました。

※7月1日に「有料多チャンネル事業」を「メディア事業」に変更します。

成長への取り組み

**戦略的な業務提携などにより
事業領域の拡大を図ります。**

当社グループは、Kongsberg Satellite Services社（ノルウェー）とアジア・太平洋地域での低軌道衛星向け地上局サービス事業及び衛星画像を活用した情報提供サービス事業の戦略的な業務提携に関する契約を2016年12月に締結いたしました。これにより当社グループは、アジア・太平洋地域での地上局ネットワークの拡充を加速するとともに、グローバル

2017年3月期

営業収益

1,928 前期比 18.4%増
億円 UP

営業利益

244 前期比 0.9%増
億円 UP

親会社株主に帰属する当期純利益

174 前期比 3.2%増
億円 UP

1株当たり
当期純利益

58.64円
前期55.39円

1株当たり
年間配当金

18.00円
前期14.00円

展開を計画している低軌道衛星事業者等へ、より幅広いサービスを提供いたします。また、2017年5月には多数の低軌道衛星ネットワークによる通信サービスを計画中のLeoSat社(米国)への出資参画を決定いたしました。LeoSat社と低軌道衛星通信事業の立ち上げに向けた準備・検証を共同で実施してまいります。さらにドローン事業の展開拡大のため(株)エンルート(国内最大手の産業用ドローン開発製造会社)に出資し、子会社化しております。

有料多チャンネル事業においては、2018年より実用放送の開始が予定されている東経110度CS左旋放送における4K放送において、(株)スカパー・エンターテイメントが8チャンネルの衛星基幹放送業務の認定を受けました。また(株)スカパー・ブロードキャスティングは番組制作事業の強化を目的として4K/HDR*対応中継車を導入し、2017年2月より運用を開始いたしました。

*テレビ画面上での明るさの表現の幅が飛躍的に向上するHDR(High Dynamic Range)

2018年3月期の業績見通し

減収減益の見通しですが、 次の成長に向けた取り組みを進めていきます。

中期経営計画2年目となる2018年3月期は、宇宙・衛星事業において前期に計上した防衛省向けの専用衛星の引き渡しによる収益分が剥落するほか、新規衛星打ち上げによる衛

星減価償却費の増加により減収減益となりますが、次の成長に向けた取り組みを確実に進めていきます。

宇宙・衛星事業においては、中計達成に向けた基礎固めとして、2018年、2019年に打ち上げを予定しているJCSAT-17、18、Horizons 3eの準備を着実に推進するとともに、成長余地のあるグローバル・モバイル分野への取り組みを継続して行っています。

有料多チャンネル事業においては、事業の構造改革に着手し採算性を向上させるとともにネット配信の充実や4K放送の推進などにより競争力のあるサービスの構築を図っていきます。

株主還元

株主還元を重視し安定配当を継続いたします。

株主の皆様への還元につきましては、引き続き将来の成長へ向けた投資のための内部留保の充実と安定配当の継続を基本方針としております。2017年3月期の株主の皆様への配当は年間では前期から1株当たり4円増配の18円とさせていただきます。2018年3月期につきましても、年間1株当たり18円の配当を継続する方針です。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社の成長にご期待いただきながら、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2018年3月期 業績予想

営業収益

1,535 億円 前期比 20.4%減 DOWN

営業利益

170 億円 前期比 30.4%減 DOWN

親会社株主に帰属する 当期純利益

115 億円 前期比 34.0%減 DOWN

Q.1

有料多チャンネル事業の構造改革について教えてください。

A.1

7月1日に現在の「有料多チャンネル事業部門」を「メディア事業部門」に変更します。

メディア事業部門とするのは、多チャンネル放送のみならず、あらゆる伝送路やデバイスへのサービスを強化し、幅広く収益化していくために、組織、意識改革を断行しなければならないという認識によるものです。



Q.2

国内衛星ビジネスの状況について教えてください。

A.2

国内における衛星利用は、衛星の優位性である回線の柔軟性、耐災害性、同報性などを活かした領域を中心として、堅調に推移しております。国内携帯キャリアのバックホール回線(携帯電話基地局とネットワークセンター(基幹網)とを結ぶ回線)として当社グループの衛星通信回線が利用されることが決定いたしました。

Q.3

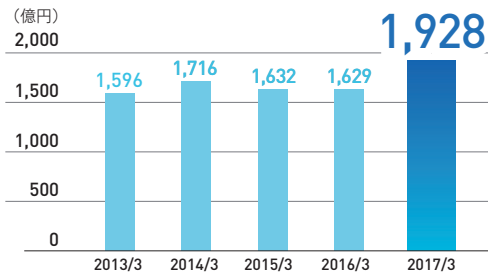
今後の設備投資計画、減価償却費の考え方について教えてください。

A.3

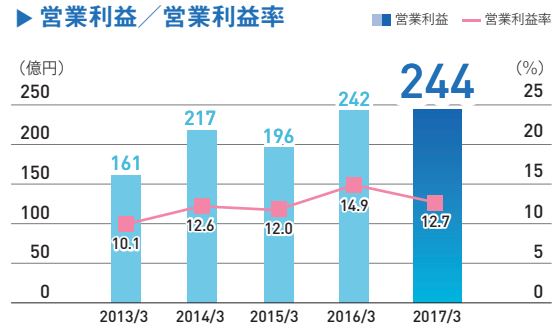
4K放送への対応や様々な放送、配信サービスを効率よく運用していくためにスカパー東京メディアセンターの設備を2018年度から2019年度にかけて大幅に更新します。またモバイル向け衛星JCSAT-17、HTS (High Throughput Satellite) 衛星 Horizons 3e及びJCSAT-18を打ち上げるための投資を行います。2016年度に3機の衛星打ち上げが成功し、減価償却費は今後増加する見通しです。

財務ハイライト

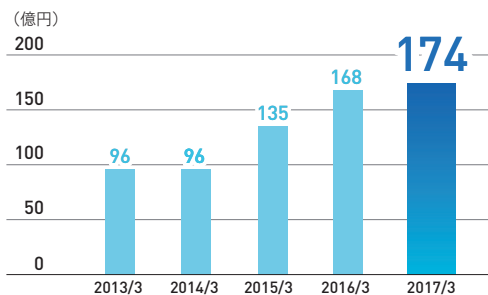
▶ 営業収益



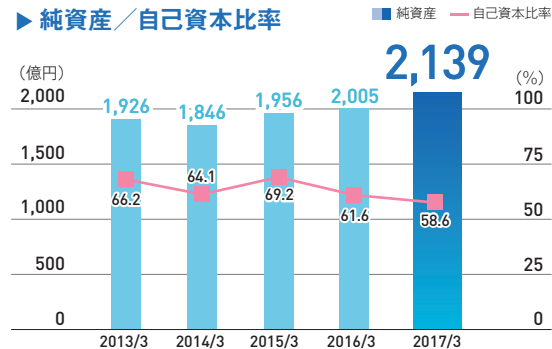
▶ 営業利益／営業利益率



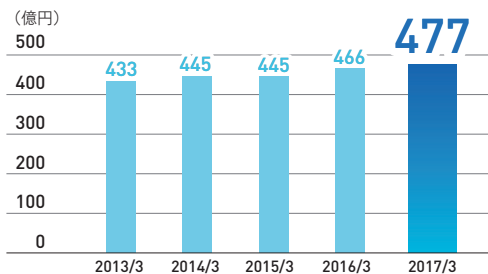
▶ 親会社株主に帰属する当期純利益



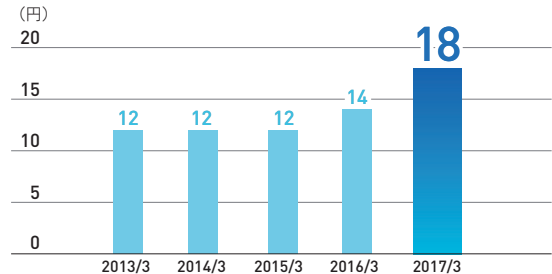
▶ 純資産／自己資本比率



▶ EBITDA



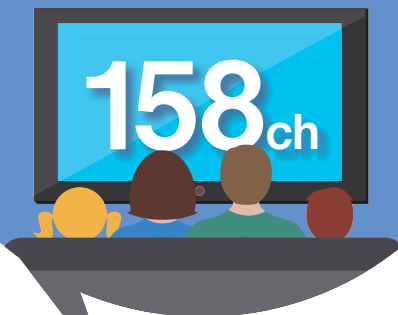
▶ 1株当たり年間配当金



EBITDA=(当期純利益)+(税金費用)+(減価償却費)+(のれん償却費)+(支払利息)

スカパー!の強み

日本最大の衛星有料 多チャンネル放送

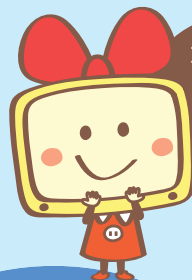


スカパー!は、1996年10月のPerfec TV!本放送開始以来、衛星有料多チャンネル放送をリードしてきました。スポーツ、映画、ドラマ、アニメ、音楽、バラエティなど多彩なコンテンツを158チャンネル(スカパー!プレミアムサービス)で提供しています。お客様の1チャンネルから契約することも、お得なパッケージや各種セットでの契約も柔軟に選ぶことができます。

オリジナルコンテンツ



1チャンネルでも契約すると視聴できる「おまけチャンネル」のBSスカパー!では、ドラマ、音楽、スポーツ、バラエティなど多彩なオリジナルコンテンツをお楽しみいただけます。2016年8月に放送し、大きな反響を呼んだオリジナル連続ドラマ「弱虫ペダル」の続編も2017年8月に放送予定です。また、2018年にはBSスカパー!初のオリジナルアニメとなる「グラゼニ」の放送を予定しています。地上波にはないオリジナルコンテンツで差別化をはかります。



スカパー!の
魅力が
広がるね

インターネットやスマートフォンの普及により、テレビ視聴は大きな構造変化を迎えています。
常にパイオニアであり続けるスカパーの成長を支えるものとは？
あらためて、その強みをご紹介します。

スカパー!4K



スカパー!は2015年に世界初の4K商用チャンネルを開局し、現在3つの専門チャンネルで4K放送を行っています。2016年10月からは、映像の明暗の表現において広いダイナミックレンジを持ち、より自然な描写が可能となる4K HDR放送も開始いたしました。

2018年度に予定されるBS・110度CSの4K・8K実用放送開始に向けて、グループ会社の(株)スカパー・エンターテインメントが2017年1月には東経110度CSによる4K実用放送の業務の認定(4K 8チャンネル)を受けました。

東京五輪が開催される2020年には日本における4Kテレビの世帯普及率は50%を越えると推測されています。いよいよ本格的な4K放送時代の幕開けに向けてスカパー!は準備を進めています。

スカパー! オンデマンド

オンデマンド

IPリニア

54 83
ch ch

スマートフォンやタブレットなどで、いつでもどこでもスカパー!を楽しめるスカパー!オンデマンドの登録者数は2017年3月末で114万件を超えています。IPリニアチャンネル数は54チャンネル、オンデマンドのみ展開のチャンネルを合わせると83チャンネルとなりました。2016年10月には「スカパー!オンデマンドアプリ」をリリースし、2017年4月にはスカパー!オンデマンド Webブラウザのユーザインターフェイスをリニューアルしました。お客様情報に基づきパーソナライズされた番組を表示する機能も好評です。

今後、放送サービスとIPサービスのシームレスな連携により、伝送路や視聴環境にかかわらず、お客様に新たな視聴体験を提供していきます。



宇宙・衛星ビジネスの強み

アジア最大の 衛星通信事業者

スカパーJSATは北米上空からインド洋上空まで18機の衛星を所有する、日本唯一そしてアジア最大の衛星通信事業者です。2016年度には3機の後継衛星の打ち上げに成功し、成長性の高いアジア・太平洋域のカバーエリアを拡大しました。

グローバル・ モバイル市場 で成長

衛星通信の
可能性が
広がるね



安心・安全 を支える 衛星通信

総務省は非常用通信手段に関するガイドラインで、衛星通信手段の確保を推奨しています。東日本大震災以降、BCP対策として衛星通信需要が高まる中、当社は災害に強く信頼性の高いインフラを提供し、皆様の生活の安心・安全を支えています。

衛星通信は災害時の医療救護活動や遭難事故などの緊急連絡手段にもなります。通信手段のない山岳地域などでのWi-Fi接続サービスや、災害現場と医療チームを結ぶ連絡手段として、当社の衛星ネットワークシステムが活用されています。

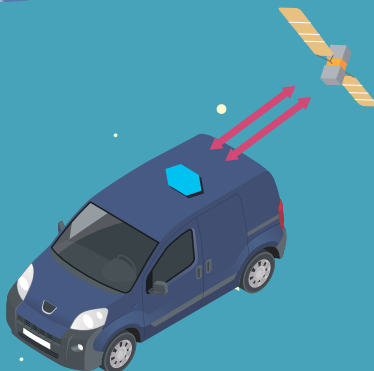


宇宙・衛星事業では衛星の広域性、同報性、耐災害性などのメリットを活かし、衛星通信サービスを提供しています。社会の安心・安全を支えるとともに、衛星利用領域を拡げ、新しい事業分野を切り拓く宇宙・衛星ビジネスの強みをあらためてご紹介します。

航空機内でのWi-Fi 利用など船舶、航空機内におけるインターネット回線需要が拡大しています。2016年に打ち上げに成功したJCSAT-2B、JCSAT-110A はアジア・太平洋、南インド洋域にカバーエリアを拡げ、拡大する船舶・航空機向けモバイル通信需要を取り込みます。

2018年にはインテルサット社と共同で当社初のHTS (High Throughput Satellite) 衛星Horizons 3eを投入し、さらに2019年には別の海外オペレータと共同で、2機目のHTS衛星を打ち上げます。HTS衛星はスポットビームを多数搭載し、隣り合わないエリアで同じ周波数を繰り返し使うことにより、従来の衛星より通信容量が約10倍となり、更なる増加が見込まれるアジア・太平洋地域での衛星通信需要への対応を可能とします。

また、Sバンドを搭載したJCSAT-17を2019年度に投入し、日本国内の通信需要にも対応します。



新規宇宙 ビジネス へ進出

低軌道衛星などの新たな宇宙ビジネスが注目される中、当社も新規宇宙ビジネスに積極的に参入しています。

2015年9月には超小型衛星開発の(株)アクセルスペースに出資し、超小型衛星を活用した地球観測網の構築に参画しています。2016年12月には低軌道衛星向け地上局サービス大手のノルウェー企業Kongsberg Satellite Servicesと戦略的業務提携を行い、低軌道衛星関連事業を加速するとともに、海洋情報サービスへ事業へ参入しました。2017年3月には新しい衛星通信分野の開拓を目指し、平面アンテナメーカーである米国Kymeta Corporationとの戦略的業務提携を行うなど、新事業領域への進出を進めています。



JリーグYBCルヴァンカップを4K HDR対応中継車で生中継。迫力ある中継を拡大

スカパー！は2015年3月に世界初の4K商用チャンネルを開局して以来、日本の4K放送をけん引してきました。視聴者の皆さまに4Kコンテンツをよりお楽しみいただくため、2016年10月から世界初の4K HDRによる放送を「スカパー！4K 体験」で開始しています。4K HDR放送では映像の明暗の表現において広いダイナミックレンジを持ち、より自然な描写が可能になります。4月12日には(株)スカパー・ブロードキャスティングの4K HDR対応中継車を使用し、JリーグYBCルヴァンカップを4K HDRにて生中継いたしました。

今後、高度な中継設備のないスタジアムやコンサート会場からも、この4K HDR対応中継車を活用し、高品質・大迫力の映像を提供します。



2月1日、新「スカパー！サッカーセット」が誕生

TV、PC、スマホ、タブレットでいつでもどこでもサッカー番組を視聴できる「スカパー！サッカーセット」が2月1日に発売されました。UEFAチャンピオンズリーグやヨーロッパリーグ、セリエA、W杯欧州予選など世界最高峰のサッカーから、ルヴァンカップ、天皇杯、ユース・育成年代の試合中継などの国内サッカーまでが見られる新しいサッカーセットです。さらに、国内外のサッカーの最新情報を生放送でリアルタイムにお伝えするサッカー情報番組「スカサカ！ライブ」や「クラブのホームタウンを独自の視点でお伝えする「平ちゃんの「ほな行こか」」など新しい番組もスタート。サッカーを様々な角度から深く楽しむなら新発売の「スカパー！サッカーセット」がおすすめです。

「スカパー！サッカーセット」をご契約の方は、スカパー！オンデマンドでも無料で視聴いただけます。スカパー！公式サイトよりMyスカパー！IDを取得のうえ、スカパー！オンデマンドへログインして簡単にご利用になれます。なお、スマホ・タブレットでのご視聴には「スカパー！オンデマンドアプリ」がおすすめです。

※権利の都合上、オンデマンド配信のない番組もあります。
詳細はこちらから <https://soccer.skyperfectv.co.jp/join/>

スカパー！サッカーセット

月額**2,980**円(税込)



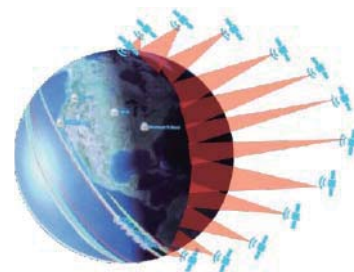


米国プラネット社と地球観測衛星ビジネスを展開

当社グループの(株)衛星ネットワークは、プラネット社(Planet社:米国 サンフランシスコ)の多数の超小型地球観測衛星により高頻度で撮影された衛星画像を、2016年8月より日本国内において独占販売しました。プラネット社の超小型地球観測衛星は、2017年2月に88機の打ち上げに成功し、計149機体制となることで撮影頻度が大幅に増加します。

これにより、いままで困難であった広域災害被災状況の連続監視・自然環境監視、全世界の沿岸地域監視・陸域監視、港湾・空港の管理・監視、農業の生育管理(精密農業*利用)、国内外大型工事の進捗管理などにおいても画像データの活用が可能になります。すでに複数の国内機関とも画像販売契約を締結するなど好調に進捗しており、引き続き多様な分野でさらなる事業展開を進めてまいります。

*精密農業: 農地・農作物の状態をきめ細かく観察・制御し、農作物の収量および品質の向上を図る農法。



プラネット社の超小型衛星は
149機体制で地球を常時撮影



ヤマハ発動機(株)と(株)エンルートが産業用ドローン分野での業務提携へ

当社グループの(株)エンルート(以下「エンルート」)は、ヤマハ発動機(株)(以下「ヤマハ」)と産業用ドローン事業での業務提携に向けた検討を開始しました。今後両社は8月を目途に業務提携契約を締結し、それぞれの製品や事業ノウハウを活用し、

①農薬などの散布ドローンをはじめとした産業用ドローン事業のグローバル展開
②精密農業、各種インフラ点検、測量、環境対策、災害対応、運輸、漁業などでドローンを利用した新規市場開拓を目指します。ヤマハは1989年に農業散布用無人ヘリを販売し、国内における防除散布面積は主食用水田の42.5%(2016年実績:ヤマハ調べ)に及び、農業用途では韓国、米国、豪州などでもグローバルに拡大しています。エンルートは産業用マルチローター型ドローンを他社に先駆けて開発・販売。農業分野のマルチローター型ドローンでは日本で初めて農林水産航空協会による性能確認基準の適合を受けて累計500台(2017年3月現在)を販売するなど実績を重ねています。このほか、インフラ点検など幅広い産業分野で官公庁に向けたプロ用ドローンを開発・納入しており、両社の協業によって新たな市場の拡大が期待できます。



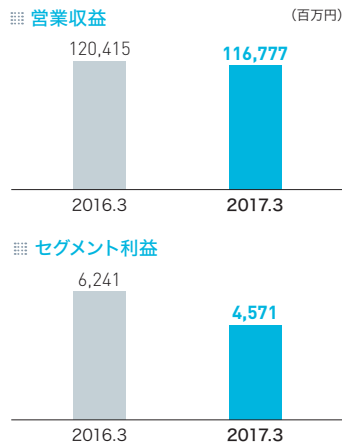
ヤマハ産業用無人ヘリ
「FAZER R」



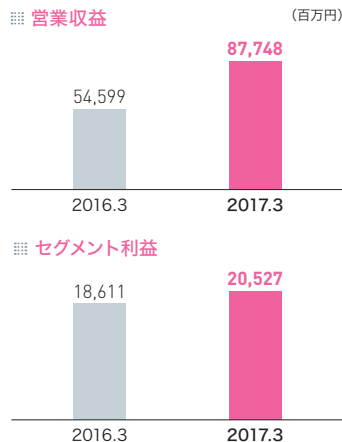
エンルート農業用マルチコプター
「AC940-D」

2017年3月期の概況

有料多チャンネル事業



宇宙・衛星事業



加入の状況

2016年度実績

新規加入件数	
スカパー! 合計	35.0万件
スカパー!	28.0万件
スカパー! プレミアムサービス	6.2万件
スカパー! プレミアムサービス 光	0.8万件
純増数	△16.2万件
累計加入件数	332.0万件
ARPU(¥)	2,133
SAC単価(¥)	39,274

有料多チャンネル事業

有料多チャンネル事業では、スカパー！加入者獲得に向けて「加入料0円キャンペーン」や「10日間無料放送」を実施しました。またオリジナル番組投入による競合メディアとの差別化として、2016年8月には連続ドラマ「弱虫ペダル」を放送し、10月よりジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(B.LEAGUE)の放送を開始、2017年2月からは国内外のサッカーが視聴可能な「スカパー！サッカーセット」を新たに販売しています。さらにドコモショップやソフトバンクショップにてスカパー！サービスの申し込み受付を開始し、加入者獲得に努めました。「スカパー！オンデマンド」ではテレビ放送の番組をスマートフォン、タブレット、PC等で視聴できるIPリニア配信を推進、2017年3月末で54チャンネルと配信チャンネルを大幅に増加しました。セグメント業績は、視聴料収入の減収等により減収減益となりました。

宇宙・衛星事業

宇宙・衛星事業では、携帯キャリアのバックホール回線として当社グループの衛星通信回線利用が決まるなど、国内衛星ビジネスが衛星の優位性を活かした領域を中心に堅調に推移しました。防衛省より受注したXバンド通信衛星は、2017年1月に2号機の打ち上げに成功しました。2016年に輸送中の事故で損傷した1号機の修理も順調に進み、2018年3月から9月の打ち上げを予定しています。国際衛星ビジネスでは、グローバル・モバイル事業の推進力強化に向けて「グローバル事業本部」を新設しました。また移動体通信ビジネスは当社グループの衛星帯域利用が順調に拡大し、全日本空輸(株)の国内線機内インターネット接続サービスに続き、日本航空(株)でも国内線向け機内インターネット接続サービスでも当社通信衛星の利用が開始されました。以上の結果、セグメント業績は増収増益となりました。

連結財務情報

▶ 連結財務ハイライト

(単位:百万円)

経営成績(会計年度):	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3
営業収益	159,609	171,683	163,294	162,905	192,875
営業総利益	53,441	60,430	59,119	61,266	62,282
営業利益	16,153	21,713	19,627	24,210	24,433
経常利益	15,698	21,529	19,580	24,012	24,875
税金等調整前当期純利益	15,643	18,543	20,362	24,292	24,296
親会社株主に帰属する当期純利益	9,682	9,659	13,515	16,867	17,415

営業活動によるキャッシュ・フロー	38,372	33,345	16,633	24,806	7,029
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,119	△18,969	△34,746	△28,804	△22,882
フリーキャッシュ・フロー(※1)	27,252	14,375	△18,113	△3,997	△15,853

財政状態(会計年度末):	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3
現金及び現金同等物の期末残高	74,472	63,783	33,963	48,557	46,150
総資産	290,486	287,580	282,516	319,223	359,484
有利子負債残高	49,398	45,994	38,366	64,137	82,753
純資産	192,693	184,679	195,640	200,511	213,908

(単位:%)

その他指標:	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3
営業利益率	10.1	12.6	12.0	14.9	12.7
自己資本比率(※2)	66.2	64.1	69.2	61.6	58.6
ROE(自己資本当期純利益率)(※3)	5.1	5.1	7.1	8.6	8.6

※1 フリーキャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

※2 総資産に対する自己資本の比率

※3 ROE(自己資本当期純利益率)＝当期純利益／((期首自己資本＋期末自己資本)÷2)

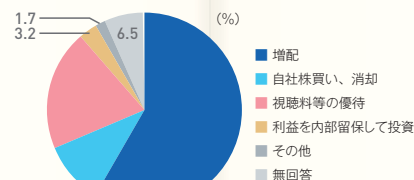
第10回株主様アンケート結果のご報告

このたびは「第10回株主様アンケート」にご協力いただき、誠にありがとうございました。

今回のアンケート結果からは、株主還元への期待として引き続き「増配」、「視聴料等の優待」、「自社株買い、消却」のご要望が高いことが示されています。現行の中期経営計画における配当方針としては、1株当たり年間16円または配当性向30%以上となる金額のいずれかが高い方を配当させていただくことにしており、この方針のもと2017年3月期は年間18円と4円増配し、2018年3月期は年間18円の配当を維持する予定です。

ご回答いただきました内容は、今後のIR活動の改善と充実のための参考とさせていただきます。

アンケート結果 最も期待する株主還元は？



東南アジア教育支援プロジェクトのご紹介

日本ユネスコ協会「世界寺子屋運動」に協力し、カンボジアで学校建設

当社は2015年度より、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の「世界寺子屋運動」に参加しています。この運動の目的は、貧困や紛争などの理由から教育を受けられない開発途上国の子どもや、読み書きのできない大人に教育機会を提供することです。

本運動を支援する方法のひとつに、使わないプリペイドカードや書き損じはがきなどを収集し、募金に変えるものがあります。

当社では、BSスカパー!などのスカパー!自社チャンネル内でのCM放送や、番組紹介マガジン「ヨムミル!」への案内チラシ同梱を通じて多くの加入者様からのご協力を得たほか、社内でも啓発活動と収集を行いました。また、Facebookのスカパー!アカウントで「いいね!」を押していただいた数に応じ、当社が寄付金を拠出する活動も実施しました。これらの募金は学校の建設や学用品購入の資金に充てられています。

2017年3月に当社は、本運動によりカンボジアに建設された「ボングロ・コロオム寺子屋」の開所式に参加しました。現地では、子ども達や地元の方々と交流し、カンボジア文部・青年・スポーツ省などと今後の寺子屋への衛星利用などについても議論を交わしました。



会社情報

■ 会社概要 2017年6月23日現在

会社名	株式会社スカパーJSATホールディングス (SKY Perfect JSAT Holdings Inc.)
設立	2007年4月2日
資本金	100億円
従業員数	850名(連結)2017年3月31日現在
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目14番14号
電話番号	03-5571-1500(代表)
URL	http://www.skyperfectjsat.co.jp

取締役及び監査役

代表取締役社長	高田 真治	取締役(非常勤)	中谷 巖
取締役	仁藤 雅夫	取締役(非常勤)	飯島 一暢
取締役	小森 光修	取締役(非常勤)	小笠原倫明
取締役	小山 公貴	取締役(非常勤)	上坂 清
取締役	横水 伸次	取締役(非常勤)	小杉 善信
取締役	小牧 次郎	取締役(非常勤)	新宮 達史
		監査役	小川 晃
		監査役	西村 至
		監査役(非常勤)	勝島 敏明
		監査役(非常勤)	相子 宏之

■ 株式情報 2017年3月31日現在

発行済株式総数 344,603,700株 株主総数 29,379名

大株主

株主名	持株数	持株比率*
伊藤忠・フジ・パートナーズ(株)	76,568,800	25.78%
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	26,057,000	8.77%
日本テレビ放送網(株)	20,891,400	7.03%
(株)東京放送ホールディングス	18,434,000	6.21%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(三井住友信託銀行再信託分・三井物産(株)退職給付信託口)	13,405,200	4.51%
住友商事(株)	11,129,200	3.75%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	7,402,900	2.49%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	5,422,600	1.83%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001(常任代理人(株)みずほ銀行決済営業部)	4,871,814	1.64%
(株)電通	4,059,400	1.37%

上記のほか、自己株式が47,595,852株あります。

* 持株比率は、自己株式を除いて計算しております。

免責事項

本株主通信に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	毎年3月31日
配当の基準日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
取引市場	東京証券取引所 市場第1部
証券コード	9412
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

お問合せ先

お取扱窓口

証券会社に口座をお持ちの場合、各お取引の証券会社等へお問合せ下さい。
証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、下記「お取扱店」にてお取次いたします。

お問合せ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

お取扱店

みずほ証券 本店および全国各支店／プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
みずほ信託銀行 本店および全国各支店

未払配当金のお支払

みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店
(みずほ証券では取次ぎのみとなります)

※支払明細の発行については、上記の「お問合せ先」または「お取扱店」をご利用ください。

BSスカパー!の人気番組

「モノクラ〜ベ」第8シーズンは4Kでも見られる!

スカパー!のおまけチャンネル、BSスカパー!では、音楽、バラエティ、アニメ、スポーツ、ドラマ、ニュース・ドキュメンタリーなど幅広いジャンルをお楽しみいただけます。広告放送である地上波では決してできない、スカパー!独自の番組作りを目指す中で生まれた、大人気の商品比較バラエティ「モノクラ〜ベ」をご紹介します。

*BSスカパー!はスカパー!のご加入者が無料で視聴いただけるチャンネルです。

「モノクラ〜ベ」第8シーズン

スカパー!241ch プレミアムサービス 579ch【毎週日曜夜9時放送】
スカパー!4K総合(596ch)【毎週日曜夜10時放送】

「モノクラ〜ベ」ってどんな番組?

毎回ゲストが欲しいと思うモノの中から人気商品を2つピックアップし、対決形式で商品のウリを徹底的に比較検証。プレゼンし、どちらか選んでもらう番組です。徹底した商品比較はもとより、商品の「欠点」まで比べることでモノの魅力を再発見。家電からハンバーガーまで登場する、モノとモノの熱いバトルが見所です。番組は新たなシーズンを迎え、第8シーズンからスカパー!4K総合でも放送を開始します。4Kの高精細な映像で、さらに楽しくご覧ください。

「モノクラ〜ベ」をお楽しみいただくために…

▶スカパー!をご契約の方は**チャンネル241**、プレミアムサービスをご契約の方は**チャンネル579**に合わせるだけで、**24時間無料**でご覧いただけます。プレミアムサービスご加入の方は4K放送「スカパー!4K総合」(**チャンネル596**)でも無料でご覧いただけます。

スカパー! <http://www.skyperfectv.co.jp/guide/>
プレミアムサービス <http://www.skyperfectv.co.jp/premium/guide/>

お問い合わせはスカパー!カスタマーセンターへ フリーダイヤル:0120-039-888

※お客様の個人情報に関する取り扱いにつきましては、当社公式サイト上のプライバシーポリシーをご確認いただき、同意の上、お申込みください。

